

# 作曲家の意志に より忠実な演奏を めざして

## 東京ニューシティー管弦楽団 上海公演

文◎編集部 木村文子

上海音楽祭の一環として東京ニューシティー管弦楽団が上海大劇院で演奏会をおこなった（11月7日、指揮は内藤彰氏）。

プログラムは現代中国を代表する作品、朱踐耳『小交響曲』、シヨパンのピアノ協奏曲第1番ホ短調、メンデルスゾーンの交響曲第3番イ短調『スコットランド』。シヨパンの協奏曲第1番のソリストは、若い世代を代表するピアニストで現在東京芸術大学付属高校3年生の実川風（かおる）さんがつとめた。

東京ニューシティー管弦楽団は、作曲家の意志により忠実な演奏をめざし、最新の研究を反映した楽譜や演奏法にこだわりをもつ。今回の公演では、シヨパンのピアノ協奏曲第1番で、ポーランドが国

家的な取り組みの未完成させた楽譜（ナショナル版）を、メンデルスゾーン『スコットランド』ではブライトコップ社が昨年発表した版を使用し演奏をおこなった。また、中国初演となったこれら両曲のオーケストラには、作品成立当初の奏法、ピリオド奏法が取りいれられた。



実川風さん